

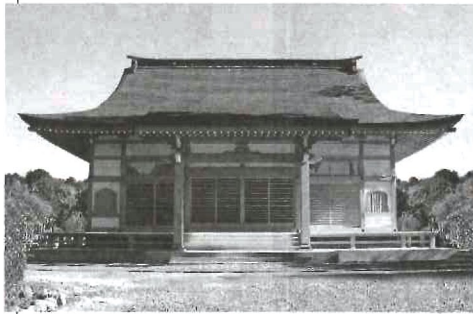
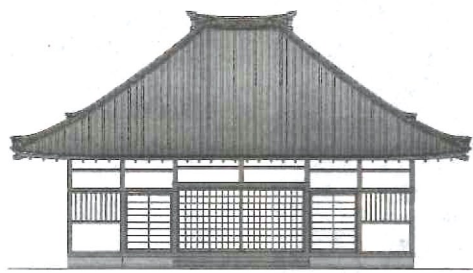
寺院建築規格化で半額

カナメ、工期も短縮

金属屋根部材の製造や寺社建築の施工を手掛けるカナメ(宇都宮市、吉原正博社長)は、コストを抑えて建てられる寺院建築を開発した。基本設計を画一化して建築用木材をあらかじめ委託工場で加工する「プレカット」を採用。工期も短くすることで、土地代を除く建設費は通常の半額で済む。過疎化で檀家が減り経営が厳しい東北、信越などの寺院を中心に年間10棟の販売をめざす。

開発したのは寺院の中心となる本堂向けの建築で、商品名を「本堂新築縁(えにし)」と名付け、先月から営業を本格的に始めた。

本堂は比較的規模の小さい寺院でも間取りや装飾にこだわった設計にすると、図面の製作から部材の発注、施工まで手間がかかって建設費が跳ね



カナメの「本堂新築縁」の基本設計イメージ(写真上)。従来の本堂は屋根や柱などに装飾も多く施工まで手間と時間がかかる(同下)

檀家減少、収入難に対応

上がる。土地代は別にしておき、中に20〜30人を収容できる延べ床面積約110平方メートルの本堂を建てるのに、1億円近くかかるという。

一方、カナメの「縁」は同じ広さの本堂を半額の4600万円(税別)で建てられる。建築用材を規格化してプレカット生産できるよう設計から見直し、工期も通常なら1年ほどかかるのを半分の5カ月間と短くすることで、建設費を抑える。

原則、間取りを「幅6間半(約12メートル)、奥行5間(約9メートル)」とし、裏側に位牌(いはい)などを置くスペースを備える設計に統一。装飾も簡素にし、屋根を華やかに見せる「唐破風」や欄干などを設けたい場合は、オプションで対応する。

「縁」のおもな施工先としては、カナメの地盤の一つである東北地方の

ほか、新潟県や長野県といった信越地方、その他中山間地を想定する。これらの中小の寺院では、従来経営を支えてきた檀

要になっても、費用を捻出できずに放置するケースが少なくないという。建設費が半額という安

さに加え、屋根には瓦ではなく地震のほか積雪にも強い銅板を採用するなど維持管理がしやすい点

も売り物に、受注を目標も高60億円(15年12月期)の半分、約30億円は寺院建築による。今後、寺院向けのコスト削減手法を神社に適用することも含めて需要を取り込み、増収につなげる。